

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 09年 11月) ～コア CPI の下落率は 3 ヶ月連続で縮小

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI の下落率は 0.5 ポイント縮小

総務省が12月25日に公表した消費者物価指数によると、11月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比▲1.7%となり、下落幅は前月から0.5ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲1.7%、当社予想も▲1.7%）通りの結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.0%（10月：同▲1.1%）、総合は前年比▲1.9%（10月：同▲2.5%）となった。

コア CPI の内訳を見ると、ガソリン（10月：前年比▲19.4%→11月：同▲5.3%）、灯油（10月：前年比▲37.1%→11月：同▲24.0%）の下落幅縮小を主因として、エネルギー価格が前年比▲7.9%（10月：同▲14.1%）と下落幅が大きく縮小した。食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.2%（10月：同▲1.1%）と4ヶ月連続で下落した。05年10月以降、4年間にわたり上昇を続けていた外食は、牛丼の値下げ（10月：前年比▲0.3%→11月：同▲3.8%）などから、前年比0.0%の横ばいとなった。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.67%（10月は▲1.28%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.29%（10月は▲0.27%）、その他が▲0.71%（10月は▲0.70%）であった。コア CPI の下落幅縮小は全てエネルギー価格の下落幅縮小によるものである。

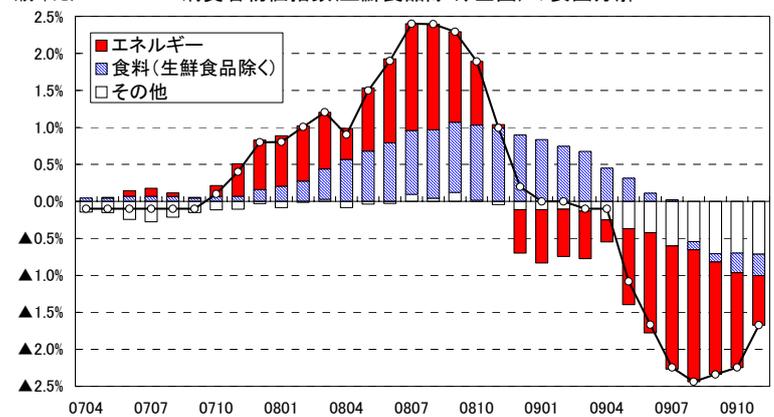
消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

| | 全 国 | | | 東 京 都 区 部 | | |
|--------|------|---------------|------------------------------|-----------|---------------|------------------------------|
| | 総 合 | 生鮮食品を 除く総合 | 食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合 | 総 合 | 生鮮食品を 除く総合 | 食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合 |
| 08年 7月 | 2.3 | 2.4 | 0.2 | 1.6 | 1.6 | 0.3 |
| 8月 | 2.1 | 2.4 | 0.0 | 1.3 | 1.5 | 0.2 |
| 9月 | 2.1 | 2.3 | 0.2 | 1.4 | 1.7 | 0.5 |
| 10月 | 1.7 | 1.9 | 0.2 | 1.2 | 1.5 | 0.4 |
| 11月 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | 1.1 | 1.1 | 0.2 |
| 12月 | 0.4 | 0.2 | 0.0 | 0.8 | 0.8 | 0.2 |
| 09年 1月 | 0.0 | 0.0 | ▲0.2 | 0.5 | 0.5 | ▲0.3 |
| 2月 | ▲0.1 | 0.0 | ▲0.1 | 0.5 | 0.6 | ▲0.1 |
| 3月 | ▲0.3 | ▲0.1 | ▲0.3 | 0.2 | 0.4 | ▲0.4 |
| 4月 | ▲0.1 | ▲0.1 | ▲0.4 | ▲0.1 | 0.0 | ▲0.6 |
| 5月 | ▲1.1 | ▲1.1 | ▲0.5 | ▲0.8 | ▲0.7 | ▲0.9 |
| 6月 | ▲1.8 | ▲1.7 | ▲0.7 | ▲1.5 | ▲1.3 | ▲1.0 |
| 7月 | ▲2.2 | ▲2.2 | ▲0.9 | ▲1.8 | ▲1.7 | ▲1.1 |
| 8月 | ▲2.2 | ▲2.4 | ▲0.9 | ▲1.7 | ▲1.9 | ▲1.1 |
| 9月 | ▲2.2 | ▲2.3 | ▲1.0 | ▲2.1 | ▲2.1 | ▲1.4 |
| 10月 | ▲2.5 | ▲2.2 | ▲1.1 | ▲2.4 | ▲2.2 | ▲1.4 |
| 11月 | ▲1.9 | ▲1.7 | ▲1.0 | ▲2.2 | ▲1.9 | ▲1.3 |
| 12月 | — | — | — | ▲2.3 | ▲1.9 | ▲1.5 |

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

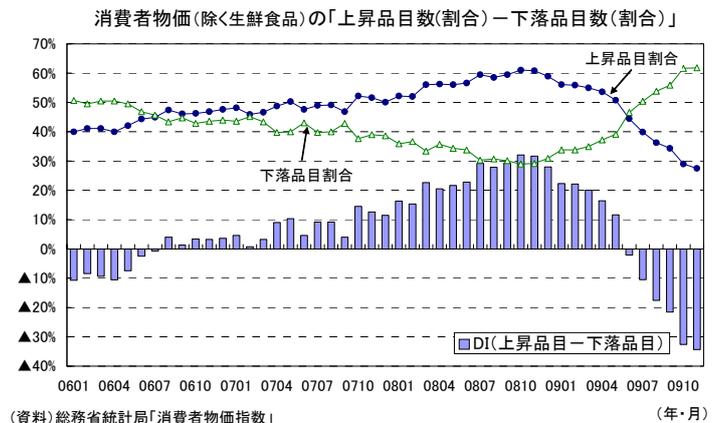


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

2. 物価下落品目数は引き続き6割を超える

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、11 月の上昇品目数は 144 品目（10 月は 152 品目）、下落品目数は 324 品目（10 月は 323 品目）となった。上昇品目数の割合は 27.5%（10 月は 29.0%）、下落品目数の割合は 61.8%（10 月は 61.6%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲34.4% となり、前月の▲32.6%からマイナス幅が拡大した。



3. コア CPI の下落率は 12 月以降、1%台前半で推移する見込み

12 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲1.9%となり、下落幅は前月と変わらなかった。事前の市場予想（ロイター集計：▲1.8%、当社予想も▲1.8%）を若干下回る結果であった。

ガソリン（11 月：前年比▲4.2%→12 月：同 7.8%）が 1 年 2 ヶ月ぶりに上昇に転じたことに加え、灯油（11 月：前年比▲23.4%→12 月：同▲11.6%）、電気代（11 月：前年比▲9.6%→12 月：同▲8.9%）、ガス代（11 月：前年比▲10.8%→12 月：同▲10.1%）の下落幅が縮小したため、エネルギー価格は前年比▲7.0%（11 月：同▲9.4%）と 4 ヶ月連続で下落幅が縮小したが、売上不振を反映し、家具・家事用品（11 月：前年比▲4.3%→12 月：同▲5.4%）、被服及び履物（11 月：前年比▲2.6%→12 月：同▲3.5%）の下落幅が拡大したことなどがそれを打ち消した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.40%（11 月は▲0.55%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.38%（11 月は▲0.38%）、その他が▲1.10%（11 月は▲0.95%）であった。

全国コア CPI の下落率は 12 月に 1%台前半まで縮小した後、09 年度末まで同程度のマイナスが続くことが見込まれる。エネルギー価格による下押し圧力は今後さらに弱まるが、需給バランスの悪化に伴う物価下落圧力が高い状態が当面続くだろう。